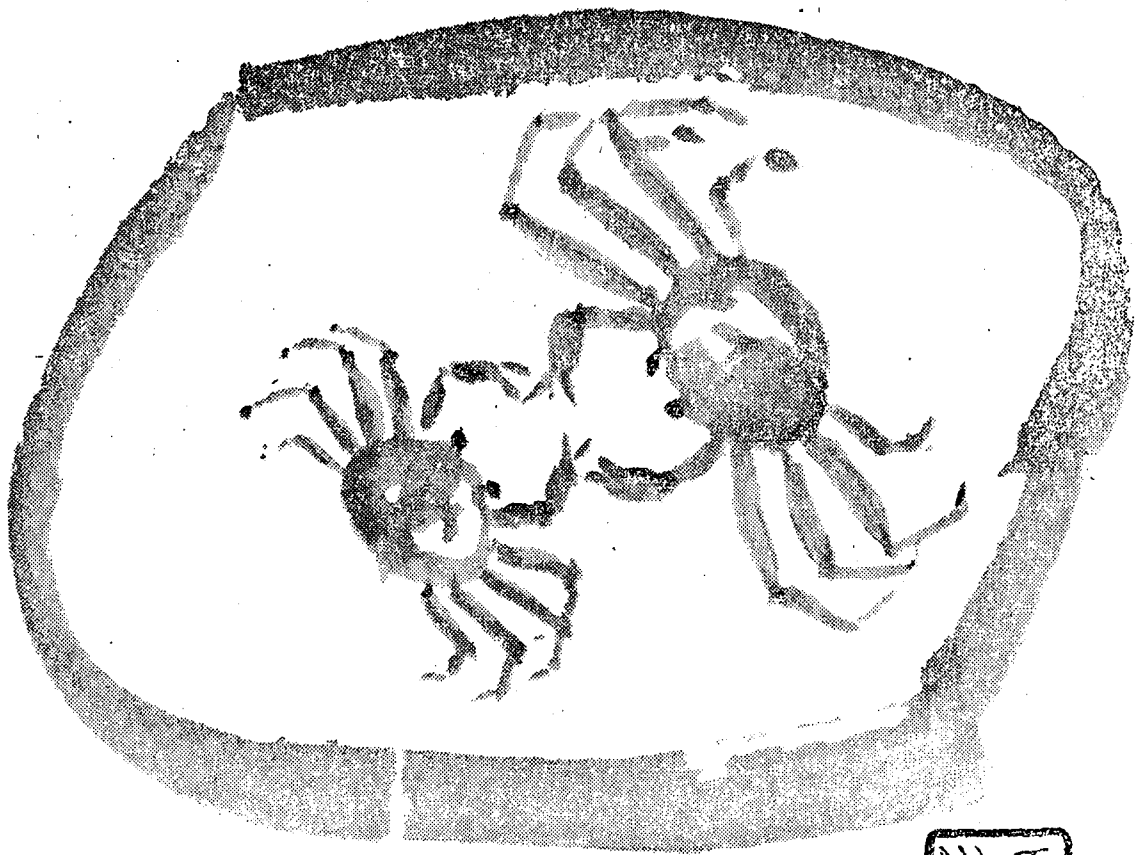


水拓

十二月



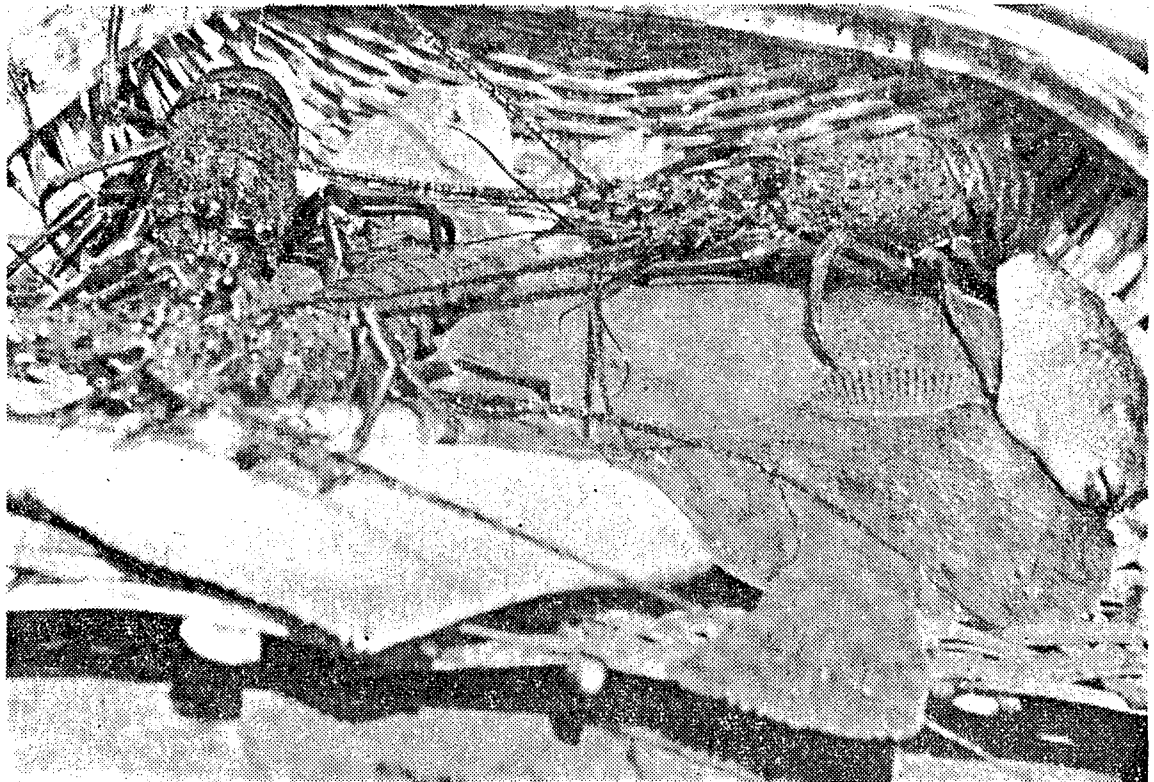
兵庫県漁業協同組合連合会

第一卷

第五号

昭和三十一年十二月十五日発行（月刊毎月一回十五日発行）

一部十円



年末と言うものは、あわただしい中にも何んとなく一抹の淋しき、一年を無事に終つたと云う安堵に似たような気持ちの交錯した時です。又新春に備えての各人それぞれの抱負をねる時、過ぎ去つた一年悲しい事、嬉しい事等を振り返えつて反省する時、月日のたつこの速いのに驚く時、楽しい思い出は何時々々までも心にいただき、悲しい思い出は悪夢を見たと思つてクヨクセずに再出発の構想をねる時でもあります。来年こそは組合員の方々の抱負が実現する良き年である事を祈りしております。

目次

| | |
|------------------|-----|
| 第五回青年大会について…………… | (1) |
| 松葉蟹…………… | (2) |
| 松本卓三 | |
| 漁況予報実現へ…………… | (4) |
| 川越敬一 | |
| 風習と榮養…………… | (5) |
| ニュース…………… | (6) |
| 引田漁協のこと…………… | (7) |
| 田寺伸彦 | |
| あさくさのり種ひび | |
| オール県内自給をめざす…………… | (9) |
| 県水試 | |

来る十二月十七日(月)第五回兵庫県漁村青年大会を、水産会館四階大ホールで開催する。

漁村青年大会は、水産業改良普及事業の主要な行事として、昭和二十七年から毎年一回開催してきたが、漁村青少年の研究実績の交流、水産技術の改良、漁業経営の合理化、漁村における研究活動の促進に大きい成果を収めている。今回の大会の概要は次のとおりである。

- 一、主催 兵庫県 兵庫県漁業協同組合連
- 二、後援 水産庁

漁村の研究活動実績発表 第五回兵庫県漁村青年大会

- 三、協賛 全国漁業協同組合連合会 神戸新聞社
- 兵庫県信用漁業協同組合連合会
- 兵庫県内海漁船保険組合
- 但馬漁船保険組合
- 兵庫県信用基金協会
- 兵庫県漁港協会

- 四、大会役員
- 会長 兵庫県知事 阪本 勝
- 副会長 兵庫県漁業協同組合連合会長 三浦清太郎
- 兵庫県農林部長 中村 宏策

五、期日と日程

開場 十二月十七日午前九時
閉会 九時半
開会 九時半
会長、来賓挨拶 九時半～十時
研究実績発表 十時～午後四時
研究実績招待発表 午後四時～五時
表彰式 五時～六時
閉会 六時

六、場所 兵庫県立水産会館
四階大ホール、研究実績発表、四階小ホール、クラブ機関誌、新工夫漁具、水産関係メーカーの優良漁業資材・漁船機関の見本展示。

漁民のシンボルである水産会館で、漁村青少年の祭典である青年大会を開催することは意義深いものがある。水産業改良普及事業を果て実施した当初は、漁村における研究活動も一部の篤志家に限られていたが、漁村青少年の努力により、組織力と計画性をもつて進められて来た研究活動は、ようやく漁村に根を張る段階になりつつある。大会に発表されてきた県下各漁村の研究実績をみて、年々目覚しく進歩し、研究内容が充実したことをものがたつて

本年もすでに、淡路、但馬、摂播の各地区で、地区予選が開かれ、昨年の県大会を思わせる盛況振りであったが、ここから選ばれた十九名の漁村青少年クラブ代表者によつて、県大会入賞の栄冠が争われる。この研究実績発表の審査員は次のメンバーである。

第一部 (技術研究)

- 審査員 兵庫 井上喜平治
- 水産試験場長
- 神戸大学 助教授 籠 禎康
- 水産庁漁船課 笠井 健一
- 神戸分室長
- 兵庫県水試 菅原 英一
- 漁業課長

第二部 (経営研究)

- 審査員 兵庫 森沢 基吉
- 水産課長
- 兵庫 吉岡 平雄
- 兵庫県教育委員
- 社会教育課長
- 摂津播磨海区漁調 小田 彌助
- 委員会専門委員

また、審査結果を集計する間、本年二月第二回の全国大会で入賞した。三重県の前田勝巳・広島県の大島昌義の両君を招待して、サワラ延縄の研究と、エビ建網の研究実績を発表してもらうことにしている。

来年早々開催される第三回の全国大会には、この大会で第一部技術研究の部で入賞した発表者を県代表として派遣する。全国大会には第一回、第二回とも入賞しているが、来年第一位の榮譽を逸しているが、来年

の全国大会には第一位の獲得を目ざしたい。三重県の前田勝巳君の研究は、さきの全国大会で第一位になつたものだけに、全国大会の出場を目標とするクラブ員諸君は大いに参考とされたい。

表彰式には、昨年の県大会と同じく、一九五六年度「海の女王」の登場をねがい、会場に花を添えることにしている。

(県水試、普及調査課)



松葉蟹

松本卓三

松葉蟹の美味しい季節になつて来た。中国山脈の紅葉の色がやがて焦茶色に変わり、季節風の強い朝には薄雪が尾根のあたりを染める頃になると一層この蟹はうまく、懐しい但馬の味を私達の舌の上に味わせて呉れる。否私達丈けでなく遠く東京に住む人達さえ、この味を恋うて便りの終り蟹の事を書いて寄こすようになる。

松葉蟹は学名ずわい蟹と呼び、日本海、それも能登半島から西部の限られた区域に生棲している言わば地方色豊かな蟹である。

そのため産地も山陰、北陸地方に限られて居り、これが夫々の地方の温泉と結びつけられて、湯治客や観光客の食欲を満たして居るのである。

蟹は海底の泥土地帯に棲み、昼は泥土にもぐつて居るが、夜は餌を求めて這い廻ると言われて居る。

底曳船の曳く網にも昼よりも夜に

たくさん入るようである。そのためこの蟹を目的に操業している漁船の乗組員は、連日連夜眠る暇もなく激しい労働を行つて居り、食膳に上るまでの蔭の辛苦は大変なものである。

さて松葉蟹は何処が真実の生産地であろうか？

山陰の温泉の看板にも、北陸の温泉の看板にも松葉蟹の絵が大々的に画かれて居る。それはあたかも温泉の湯の中に棲んでいて、それを獲つているように――

或る水産の会合でこんな話題に華が咲いた。

「松葉蟹は城崎や湯村温泉では大変宣伝されて居り、その土地の名物のように言われて居るが、實際これを獲つて居る香住や柴山は宣伝しないためか、蟹に縁のないように思われて居る向もある。

この際香住の松葉蟹として、看板を出したり、広告をして貰つてその

声価を高めることも必要であると思ふから、大いに宣伝啓蒙してほしい。」

これは水産加工業者の意見である。次に

「私の知人が昨年から湯村温泉で喰べた松葉蟹の美味しさが忘れられないので、手に入れたいが仲々入りにくいから、迷惑でも湯村温泉から買つて来て送つてほしいと依頼を受けた」

これは漁業組合の販売主任の話であつた。

蟹の生産に於ては日本一を自称したい私達にして見れば、販売主任の話は笑話として充分価値を有するよう思うが、事實をこのように捏ねてしまつた宣伝の威力に聊か驚いている次第である。

しかし松葉蟹はまだ地方的である。全国の名産、名物と言われるものの中には、唯レッテルを張り替えた支けで夫々の名産地の名産品に納まつているものは枚挙に暇がない。

卑近な例では但馬に何の関係もないザボン漬が、城崎温泉の土産物店の店頭で城崎名物として販売されている。

閑話休題、但馬で獲れている松葉

蟹の漁場は、兵庫県沖を除いては主として島根、山口県沖で漁獲されているが、不思議なことにはこの蟹を島根県や山口県の人には獲つていないと言ふことである。勿論両県の底曳漁船は、自県沖合に好漁場を持つて居る関係で、蟹の生棲する二〇〇米線の深さまで出て操業することは少いであろうが、両県を通じて蟹を獲つて居る漁船は島根半島の漁港を根拠に一、二隻が操業している程度であるとのことである。

これは宛ら庭先に生えた筍を喰ひ方を知らぬため人に持つて行かれると言ふようなことに考えられるが、島根県や山口県の人には松葉蟹の縁のないもの一つになつて居る。

過日も沿岸漁業者の一人が、島根県の仁万港へ行くため松葉蟹の籠を下げて汽車に乗つていたが

「仁万の方では昔から網に入つても蟹は全部棄てていたとのこと、蟹の真実の味を知つて居る人は少ないです。」

と話しかけて、この事實を裏書きしていた。

松葉蟹はうまいが喰べにくいものである。普通茹でたものの指や甲の身を二杯酢(醤油、酢、砂糖、味の

素等を混ぜたもの)に使して喰べることにしているが、真実の味は蟹すきに勝る料理の方法はないと思う。亦ストーブや炭火で生の指をもいで焼いて喰べるものも、生産地のみならず於て知る味である。蟹すきについては、終戦後神戸の軍政部やGHQから米人が来ると大変喜んで喰べて呉れたし、「兵庫県で一番うまい料理だ」とお世辞を言つて満足していた。

この松葉蟹も魚類の統制時代には随分と差別待遇を受けていた。

蟹は昔から高価であつて良いものは現在でも庶民の食膳には上らない。そのため贅沢品としての取扱ひを受けたのは止むを得ないと思うが……

終戦後三、四年は燃料が不足であつて、漁船は凡て漁獲高百貫に対して燃料を何立と言うように割当てを受けていたが、松葉蟹はその対象から除図された。

然し漁船の船型から蟹を獲らなければならぬ漁船もあつて、香住の底曳船等は殆んどが、燃料の対象となる魚類の漁獲に専念していたが、美方郡や城崎郡の一部の漁船は、燃料に苦しみつつ頑張り蟹を獲りつけて来た。

その頃私達の口にも蟹は入りなく入要な場合は、その蟹船所屬の組合に頼んで送つて貰つてどうにか間に合せて来たが、これも今から思えば思い出話の一つである。

蟹の漁場は決して広くない。限られた区域の中に生棲するものである故に漁獲の制限も当然行わなければならない。

従来は関係府県で夫々の県の漁業調整規則や漁業取締規則で補護の期日に制限を設けて来たが、その期日が夫々異なるために種々不便を生じて来た。

例えば島根県での禁止期間が短かいために、兵庫県ではまだ捕獲禁止期間中であるために、貨物列車で島根県の蟹が香住に入荷して地元漁業者を憤慨させたり、亦密かに密漁の蟹を島根県産の蟹に仕立てて消費地へ送つたりしたようなこともあつたが、蟹に果印がない限りは、どうにも取締りの手がつけれなかつた。

其の後関係各県でそうした事が問題となり、昭和三十年に始めて農林省令によつて「すわいが採捕取締規則」と言ういかめしい規則が出来て、全国的と言つても僅か数府県であるが、統一した取締の線が出来たのである。

しかしこれも雄と雌の採捕期間がずれているため、時々違反の疑いのあるような事故が生じている。この取締規則が出来て間もない頃即ち今年の三月の終り頃、私は但馬の中心都市と言われて居る豊岡市を所要のため独り歩いて居た。三月とは言え午後になると、風が冷たくなるこの街の駅前で、売れ残りの干魚や、茹蟹を通行人にすすめる行商のおばさん達が二、三人残つて居た。

「旦那さん蟹を安くして置きます。買つて帰つて下さい」

と言われ、担い籠を見ると、二月十六日以降禁漁中の松葉蟹の雌(但馬地方では子持蟹、せこ蟹と呼んで居る)を売つて居るので何気なく、「おばさんは何処から来ているんです」

と訊くと、「わしは丹後です。蟹を買つて下さいよ、早く帰りたいから真実安くして置きますよ」

と返事であつた。私は更に「おばさんこの子持蟹はもう獲つても売つてもいけないことになつて居りますよ」と注意すると、

「旦那さん、この蟹は子持蟹ですけどまだ娘ですから売つてもええですよ」

と真顔で弁解している。この行商のおばさんは雌蟹の卵が、綺麗な密柑色をしているので、それを蟹の処女と解釈しているかも知れない。

私はそのおばさんの言葉には聊か面喰つたが、子持蟹でも卵の未熟なものを赤子と呼び、暗紫色に熟したものを黒子と呼び、値段も黒子の方が高いことを思うと、卵の未熟な蟹こそは蟹の処女かも知れないと思つた。

しかしこのおばさんの説明は愚直なおばさんの解釈でなく、この密漁品を売りつけた漁師の甘言を真に向けての言葉だと思われた。

さて動物の世界で雄と雌の価値が比較される場合は、殆んどが雌が重宝がられているが、松葉蟹においては雄が絶対的な地位を確保している。すわい蟹が松葉蟹と呼ばれる松葉の如き足も、雄丈けが持つている美しくさである。

そのため価値のみを評価する人間共の食膳に供せられる率も多いが、子持蟹が四貫入り一箱の単位で売られ、雄蟹は一枚単位に売られていることを思うと、松葉蟹の雄の価値を認めなければなるまい。漁業者は子持蟹は余り獲らないように自粛して

居り、一航海に昨年は二五〇箱獲つて居たのを今年は二〇〇箱に減少しようとして中合せてこれを実施している。

この原因は繁殖保護の面も大いにあるが、価格低下防止の意味も含まれている。

そのために漁場では雌蟹ばかりがウヨウヨする程居る状態になつていくかも知れない。

私達は蟹が一夫多妻主義によつてドンドン繁殖することを希つていますが、蟹の世界のことは判らない。然し年々雄の体長が小さくなりつつあることは、濫獲の徴候があると考えられる。

その蟹も「雪を見れば値が高くなる」と昔から言われているのは、雪が降る頃は蟹の一番美味しい時期であり、保存も出来るためにそう言われているのかも知れない。松葉蟹は産地に近い京阪神の人より、案外離れている東京の人に重宝がられているし、但馬の松葉蟹は吹雪の頃になると、北陸地方の温泉場に地元産の蟹に化けて進出している。北陸の温泉宿で雪山を眺め乍ら美味しく喰べた松葉蟹が、但馬の駅から積出された蟹である場合も案外多いかも知れない。一方松葉蟹に誘われて

香住へ来た文化人も多い、美術評論家の北川桃雄、神戸新聞顧問の嘉治隆一、二科の鱸利彦、写真の入江泰吉の諸氏もその一人である。

亦松葉蟹の味につかれたような人が居る。この人の中には今阪大病院で宿痾の病を養つて居られる奈良東大寺の上司海雲師があるが、この人は自分も喰べられるが、毎年のように作家の志賀直哉、谷崎潤一郎、広津和郎、学習院々長の安倍能成、歌人の吉井勇等の諸氏に但馬の蟹を送つて居られる。

送られた人達も但馬の松葉蟹には馴染も深い人ばかりで、その味を恋うて居られるが、今年は海雲師が療養中とのことであれば、蟹のない歳になるかも知れない。

亦私達の身近かい詩人富田碎花氏も松葉蟹の愛好者である。

白髪を撫であげ乍ら、ポツリポツリと語られる果内の旅の記や、詩の話を、松葉蟹に手を汚し乍ら、田舎酒の辛さを口に含み、炭火の赤さを隔てて用いた事が思い出される。

亦朝日の新平家物語の挿絵の杉本健吉両伯も、上司海雲師のお仕込で松葉蟹に誘惑されつつあるようだが、多忙のため未だ来但されてない。

松葉蟹を好む人の名は尽きないが、これが何時までも但馬の漁業が誇る名産であつてほしいし、今後も

松葉蟹と言えは但馬だと言われるように、多勢の人の認識を得たい。(香住町漁業協同組合参事)

漁況予報、実現へ

—但馬漁村青ク連の創意—

県水試 川 越 敬 一

昨年の五月頃、香住漁業協同組合で但馬漁村青少年クラブ連合会の役員会が行われました。但馬漁村青少年クラブ連合会とは但馬海区九つの組合毎に結成されている漁村青少年クラブの連合会です。この時の役員会で問題となつた事はこの年の三月、春サバの漁が非常に悪かつたという事についてでした。その原因は、魚群の足が速く漁場を見付けることができなかつたためです。この足の速い魚を釣るためには但馬海区全体のサバ漁船が、お互いに漁況の交換をやつて、大魚群のいる処へ船をもつて行けばよいわけなので、この年の夏のイカ釣から実施することとなりました。イカはサバほど足が速くないから適当だろうというわけです。漁況を適確に知りたいという

ことは、漁業者だれもの願いでありましようが、但馬の青年達は青年らしい実行力でさつそくこの日の相談を実施することになり、漁況を知らせあうための番号入の漁場図を印刷しました。県水試や国立水研の指導も受け、連合クラブの本部へ集つた情報を流すためには香住漁業無線局が一肌ぬいで、毎日十五分間の放送をしてくれる相談もでき、その上、水試の試験船を借りて魚群探知機を使つて魚群を探すこともしました。こうして青年達は夏のスルメイカと秋のサバについて、その年の十一月まで「漁況交換事業」を続けました。その結果は第一年度のこと故、すべてうまくいつたとはいえないまでも一応の成績をあげ、多くの漁民に喜ばれました。また漁場の問題は

かりでなく港々で魚油にかなりの差があることも判り、その対策も立てられるようになりました。第二年（三十一年）に入つて、この漁況交換事業は、新たな発展をすることになりました。

それは兵庫県水試が、この事業を政府の行つてゐる漁業技術改良普及事業の線に正式にのせることにしたからです。国の基準に従つて会議費等も支出されるようになり、今年十月には、二台の小型魚群探知機を水試から借受けて漁船にとりつけ、魚群を探すことを始めました。魚探船（魚探を装置した漁船）の責任者は毎日魚探日誌をつけて十日毎に水試等に報告しています。しかし、かかる努力にもかかわらず、サバ、イカ等が大変不漁でした。その原因については、種々論議されているが潮流の変化で魚群が沖合へ移つたことによるものようです。こうした異変は兵庫県だけではなく日本海沿岸一帯の共通なことのようで、当然のことながら「漁況の異変をはやく知らせてほしい」、「漁況予報をやつてくれ」という強い声が方々に起つて来しました。但馬の青年達は自分達の手ですでに実行に入つていたわけですが、その漁況予報が国や県で真剣

にとり上げられるようになりました。七月には島根県の浜川市に鳥取県から長崎県に至る六県の水試の代表者が集り、また十月には福井・京都・兵庫三府県の水試の代表者が福井県の敦賀市に集り、漁況予報をどうするかについて会議を開きました。その結論は、まず手始めとしてスルメイカ、サバ、アジ、イワシブリの五種の魚を対象として、この十二月から毎月一日、十六日の二回、予報を出すことになりました。漁業者に知らせる方法としては、新聞社の協力を得て地方版にのせて貰つたり、印刷物を漁業組合へ郵送したり、あるいは漁業無線局から放送したりすることにしています。始めはまだ馴れませんが、そのうちに熟練すれば何日もさきまで予報できる見込です。見込でいるだけでなく、ぜひそうしなければならぬと固く決意している次第です。

水試が漁況の予報をするのはこれが初めてではありません。予報には、長期予報（長い期間さきの予報）と、短期予報（明日、あさつてさきの予報）があります。長期予報が成功している例としては、日本海北部、秋田県、山形県あたりのイワシ

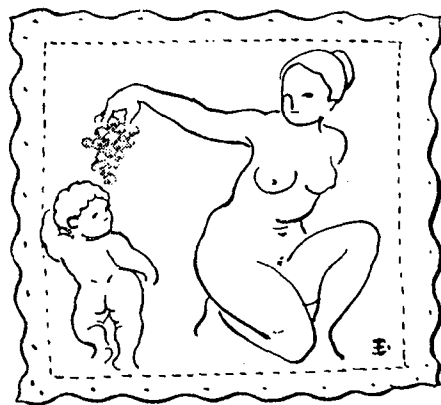
漁業があります。日本海のイワシは対馬暖流にのつてきますから対馬暖流を調べれば分るわけです。そういうねらいで昭和二十七年から日本海で対馬暖流の総合研究がすつとつづけられています。今年で五年目になります。それでわかつたことは、石川県の能登半島沖と秋田県の男鹿半島沖の潮目の海洋観測によつて、青森、秋田、山形あたりのイワシの漁況を予報できるようになりました。大体九〇％程あたるそうです。それでこの附近の漁業者は、水試のイワシ漁況の予報をきいて網や船の手当をするそうです。

短期の予報の例として、新潟県の水試がイワシ流網の漁況のラジオ放送を三年ほど前からやつており、はじめはあまりあたらなかつたのですが、最近はやつてよく当るの

で漁業者に感謝されています。また兵庫県水試は、瀬戸内海で二年ほど前から、イカナゴとカタクチイワシについて長期予報を出してきました。水温・潮流・プランクトンなどのほか、イワシやイカナゴの卵、稚魚（卵からかえつたばかりの魚の赤ん坊）などの発生量を調べて、その年の豊凶、漁期のはじまりは何時か等について予報するわけ

すが、基礎的な研究が不十分なので、自信のある予報ができないのは残念です。

魚の予報がせめて天気予報程度にあたるようになるまで、私ども水産の研究者も一般の漁業者の方もつと勉強しなければならぬと思つております。（十二月一日、NHK早起鳥で放送）



瀬連委新委員の 初会合

十二月十二日午前十時より水産会館に於て第廿三回委員会を開催した。新委員になつたので会長選挙、淡路海区の板曳の操業等について協議を行つた。

新委員の顔ぶれは左の通りである。

| 府県 | 氏名 |
|------|-------|
| 和歌山 | 我喜一郎 |
| 大阪 | 谷仙太郎 |
| 兵庫 | 三浦清太郎 |
| 岡山 | 岩本小四郎 |
| 広島 | 西岡観二 |
| 山口 | 岡本武男 |
| 福岡 | 今吉一作 |
| 大分 | 藤原千利 |
| 愛媛 | 田村重光 |
| 香川 | 宮内利夫 |
| 徳島 | 永桑亀太郎 |
| 学識経験 | 松井佳一 |
| " | 松平康男 |

及川孝平
宮崎千博

経理講習会の 開催

県漁連主催による経理講習会が

十二月十三、十四日の両日県立水産会館で行われた。講師として全漁連より税務方面に詳しい野中六郎氏に御足労をお願いし、税務関係を中心とした講習会を行つた。

県水産課の移動

| 新 | 旧 |
|------|-----|
| 漁船係 | 三上氏 |
| 試験場 | 豊永氏 |
| 漁業権係 | 本間氏 |
| 生産係 | 小黒氏 |
| 経済係 | 岸氏 |
| 試験場 | 吉中氏 |
| 調整係 | 伊丹氏 |
| 保安係 | 鉦方氏 |
| " | 組合係 |

保安係 藤沢氏 調整係
試験場 西村(誠)氏 漁業権係
組合係 大西氏 安保係

浜坂漁協の出漁船韓国 艦艇に拿捕さる

県外出漁船として浜坂漁協より対馬方面に出漁していた昭福丸は、十一月五日対馬三島の燈台沖合にて韓国艦艇に拿捕された。漁協組合を始め各係各団体が釈放方の歎願を行つている。

抑留者名及び家族名は次の通りである。

| | |
|------------|-------------|
| 門脇 作二 (四七) | 〇宮本 二郎 (二五) |
| " きくゑ (四一) | " 新造 (五七) |
| " 昭 (一五) | " こよ (五三) |
| " 幸子 (一〇) | " いる (七八) |
| " 康子 (一五) | " みよ子 (三一) |
| " 渉 (四) | " |

ラヂオ神戸

農漁村の番組

朝6時10分〜25分まで

12月19日 漁村青年大会から

26日 冬の漁業気象 現 録

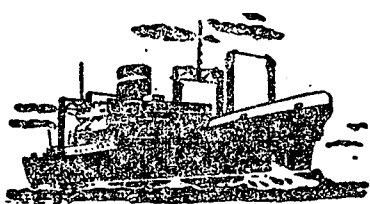
1月9日 対馬出漁船同機関指導 川越 技師

1月16日 今月の漁況と海況 岩井 技師

1月23日 漁業協同組合の信用事業 浜田 技師

1月24日 水産物の利用について 佐藤 主事

助川 技師



引田漁協のこと

この世の中の殆んど月給取り達が、何時も月給をもらう時、心の中でこう思う事だろう。

「全く、何んて安い月給なんだ。」「そして又少し慾な奴はこうも思う事だろう。」

「何んか、銀行の利子とか、株主配当とか、又家賃の収入だとか、まあそう云つたもので女房渡しの生活費位はまかなえて、この月給は云わば俺の小使さ、てな具合にならないうものかなア、そうなつたら俺は一つ……」

どうも、いきなりこんな話を持ち出して恐縮致しますが、これも話の順序と思召せ、さて漁業協同組合が活躍するための運営費、この財源は大抵の組合では共同販売手数料とか、組合員に対する賦課金等をもつて充当して居りますが、中には組合自身が行う一つの事業から得た利益金をもつて当てて居ると云う組合もある様です。つまり組合の自営事業の利益で組合をまかなつて行けるも

のもあると云う訳で、この様な組合の行き方は非常に望ましく又羨しいものであります。過日、淡路の各漁業協同組合職員を以つて組織されて居る淡路地区漁協職員協議会で視察した香川県引田漁業協同組合は、この様な羨しい部に属する組合でありました。

この組合は本県組合と比べても決して大きなものではありません。組合員数三八六名、漁船数動力一六八隻、無動力一九七隻、年間漁獲量六二万貫、年間漁獲金額四、六四〇万円、主な漁業はいわし巾着、ます網、とこの程度では別に何と云う事はありませんが、この他にこの組合の自営事業として「はまち養殖業」と「製氷冷凍業」があげられます。そしてこの、はまち養殖業を組合自営して居ると云う処が組合として優れ、恵まれ又羨しがられる所以である様です。引田漁業協同組合昭和三十年度業務報告書を見ますと、こう書いてあります。

損益計算書

自昭和30年1月1日
至昭和30年12月31日

(1) 一般の部

| 受 入 | | 支 払 | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 販売手数料 | 1,376,659 | 漁港負担金 | 2,240,000 |
| 合 計 | 5,307,674 | 合 計 | 8,016,432 |

差引本年度損失 2,708,758

(2) 養殖の部

| 受 入 | | 支 払 | |
|------|------------|-----|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 魚売上代 | 21,873,229 | 餌料代 | 10,984,799 |
| 合 計 | 24,101,143 | 合 計 | 18,875,061 |

差引本年度利益 5,226,082

(3) 製氷の部

| 受 入 | | 支 払 | |
|------|-----------|-------|-----------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 氷売上代 | 264,890 | 水道光熱費 | 688,232 |
| 合 計 | 2,416,650 | 合 計 | 2,203,192 |

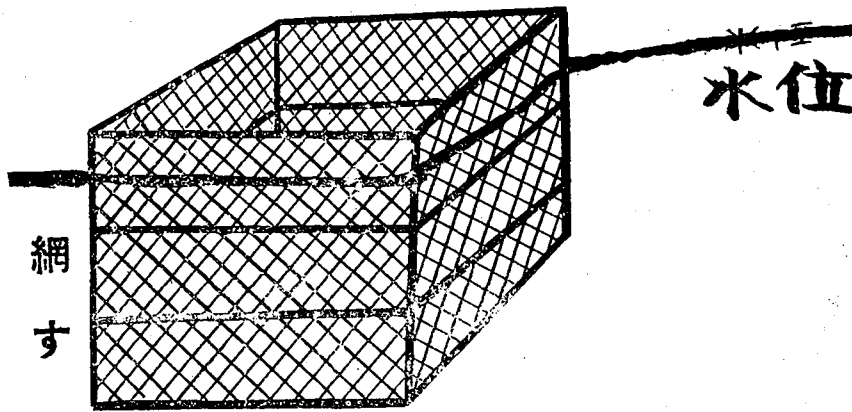
差引本年度利益 213,458

つまり一般の部で損をして居ても自営事業で利益をあげて居るから差引組合としては約二七〇万円の黒字と云う訳であります。この損益計算表を見ても解る様に「はまち養殖事業」と云うものがこの組合に非常に多くの利益を、しかも殆んど例年変りなく与えて居る事に注意しなければなりません。又この養殖事業は地理的に非常に恵まれた為に成功した事は勿論であります。やはりその他に先覚者達の数多くの努力と研究、更には英断がなかつたならば或いは成功して居なかつたかも知れませ

ん。つぎにこの「はまち養殖事業の概略を見てみる事に致します。『沿革』—安戸池(面積三十町歩、水深七・五尋、干満水位最大差、五尺)におけるはまち養殖業は大正十三年、当時の引田漁業組合長の野網佐吉氏が個人経営ではじめたものであるが、昭和二十六年の漁業制度改革により引田漁業協同組合の自営事業として、はまちの外、たい、真珠の養殖も行つて居る。創業当時、養殖魚種の決定については、並々ならぬ苦勞と研究を続けたとの事である。『稚魚』—毎年五月中旬より六月末にかけて一〇匁程度のはまち稚魚を

約二十万尾、(貫当り五〇〇円)三
重県浜島より購入し、これを運搬船
により運んで来る。

『網す』—約二間平方の木枠に細目
の網をはつたいけすである。浜島よ
り運んで来た稚魚をこの中に、約八
千尾から一万尾を放し養殖をはぢめ
る。この時の餌はいかなごやいわし
のミンチ肉であるが、大体一カ月た
つと魚体は二・三〇匁になり、これ



を檢数の上池に放流する。歩留りは
約六割五分から七割との事である。

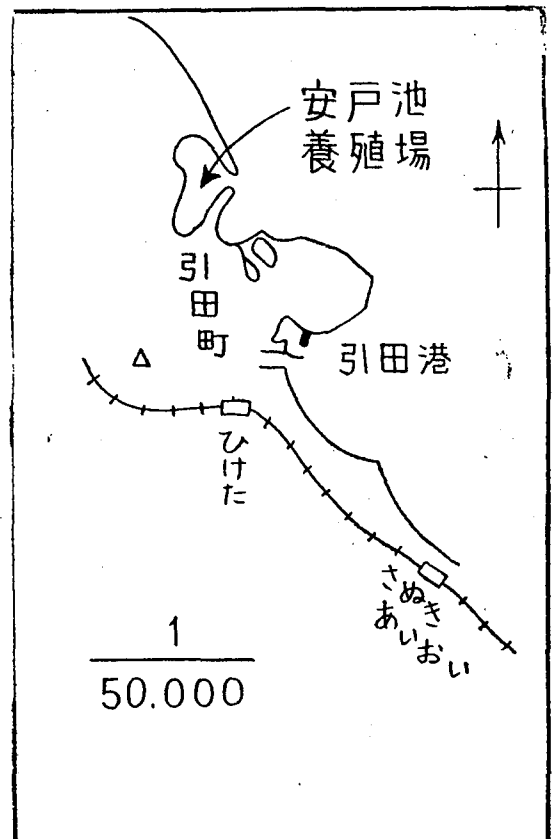
『漁獲』—八月末から九月になると
魚体は百匁程度に生長し漸時漁獲期
に入るが、十月頃には、殆んどが百
五十匁程度にまで生長し、主に阪神
方面に貫当り約一、三〇〇円で出荷
される。この時の漁獲方法は簡單
で、投餌(いわし、さんまを切つた
もの)により浮上したものをたも網
ですくうものである。

『餌料』—はまち養殖の餌は、いか
なご(初夏)いわし(夏)、さんま
(秋)で、年間(自五月至十一月)

約二〇万貫を消費して居り、十匁の
はまちに約一貫三〇〇匁の餌を与え
て半年の後に二〇〇匁程度にまで育
てると云う訳である。

この餌になるいかなごの大半は本
県(主に淡路育波)より購入して居
るとの事である。

『管理』—この養殖池の漁場管理は
、相当徹底して行われて居る。即
ち、池の西側山腹に、往時の対空見
張所の様な監視所があつて、ここで
監視員が昼夜監視して居り、池の東
側にある組合養殖事務所とは有線電
話で何時でも連絡出来る様になつて
居る。



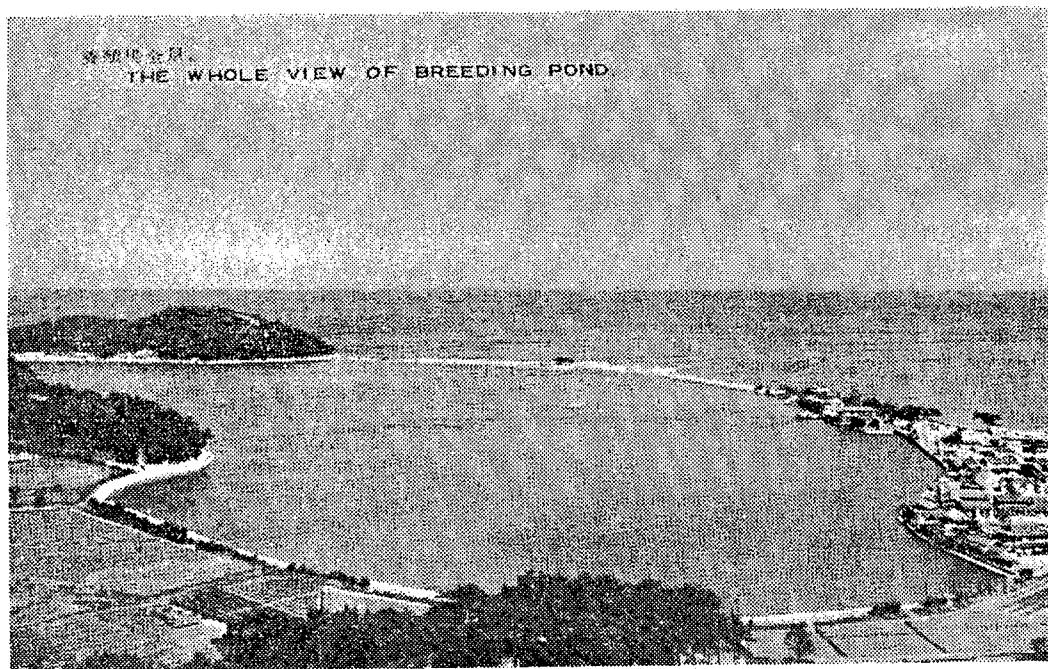
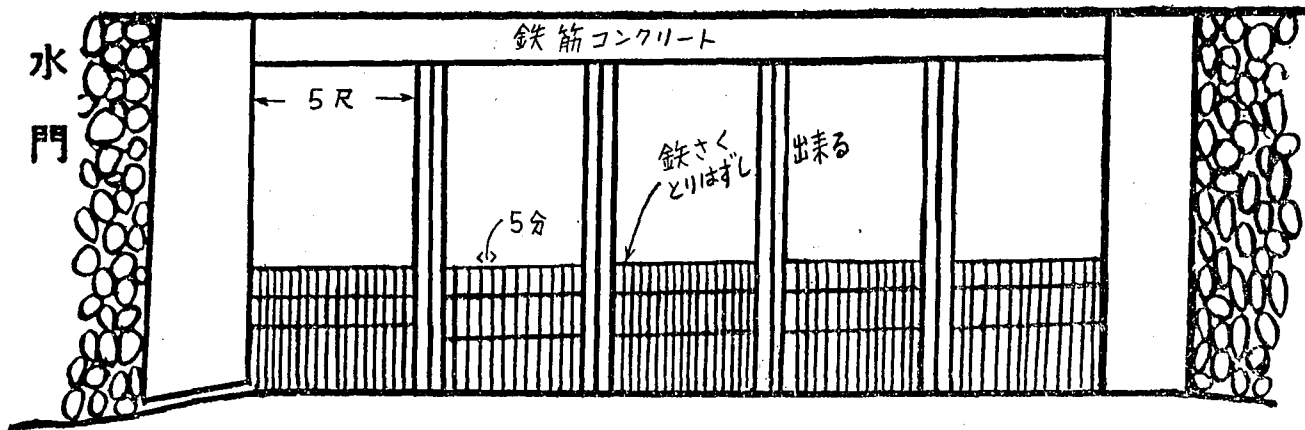
この監視は漁場管理の目的ではあ
るが、堤防とか、水門の保安のため
にも重要な役割を果して居るとの事
であつた。

又監視所には、旧海軍の大きな双
眼鏡と探照灯が備えられて居た。

『水門』—池の北東部に二カ所水門
を設けてある。潮の干満により、こ
の水門から海水の流入流出が行わ
れ、池内の海水巡還を計つて居る
が、この海水流入量、流出量により
池内の養殖魚類量を左右されるとの
事である。水門は大要の様なもの
であるが、製作費に現在では約五〇〇
万円を要すとの事で、近く資金の見
通しがつけば、三方所に増す予定で
居る。

『冷蔵庫』—年間約二十万貫もの餌
料を必要とするこの事業において
は、少しでも安価な餌料を使用する
事が採算上極めて大切な事であるの
で、この意味で組合では、冷蔵庫の
自営も行つて居る。これは、漁業権
補償金その他を資金として昭和二十
六年一、四〇〇万円で製られたもの
である。

なお、能力は五トンである。
『収入』—企業としても比較的安定
したもので、毎年五〇〇万円程度の
利益をあげて居る。この養殖事業の
注目すべき事は、既に技術研究時代
を乗り越えて、安定した企業となつ
て居る事だけでなく、養殖の池、そ
のものが国立公園に指定され、観光



【写真】 午前の山に密漕監視用の探照灯（5k）と双眼鏡（12倍）、があり毎
晩監視人は終夜当直にたつているが、これは密漕監視のための外に堤
防保安状況の監視もしている。

事業としても立派な成績をあげて居
る事である。

なお、本事業は直接従業員十三名
（海女二名を含む）、運搬漁船（

稚魚買入、成魚出荷用）一隻、観
光用遊船一七隻、事務所、食堂、
土産物屋、等をもつてなされて叩
た。（果水産課田寺）

あさくさのり種ひびの
オール県内自給をめざす
——兵庫果水産試験場——

あさくさのりの養殖は、県下内海の漁
村で真剣にとりあげられ、試験場も積極
的に普及指導に乗り出しているが、今年
はその手始めに県内産種ひびの配給を行
った。

これは、優秀なりの漁場をもつ赤穂漁
業協同組合に、のり種付と種ひびの配給
を委託して行つたもので、配給枚数、一
五〇枚。一網ひびの長さ一〇間、巾四尺
一配布先は、網干、高砂、別府、尾上、
明石、洲本、湊の各漁村。種付けの成績
も良好で、その後の成育状況も順調で
ある。

のり養殖は、全国的に拡張されつつあ
り、種ひびの需要が急に延びて、種場が
不足する傾向にあり、本県が毎年主に買
い付けている（二百枚前後）愛知県産種
ひびも、近年品質が不揃で、移殖後の成
績も余り芳しくないもので、前々のから構
想であつた、種ひびの県内自給が本年始
めて実現したものである。

本年の種ひびの需要の実績から県下の
種ひびの配布枚数を五〇〇枚と見積り、
来年は、赤穂漁業協同組合の協力によ
り、種ひび生産の規模を拡張して、種ひ
び県下オール自給の心構えでいる。

よ き 新 年 を お む か え 下 さ い

兵庫県漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 弐

兵庫県漁業信用基金協会

理 事 長 三 浦 清 太 郎

副 理 事 長 西 上 重 弐

兵庫県内海漁船保険組合

組 合 長 三 浦 清 太 郎

但馬漁船保険組合

組 合 長 西 上 重 弐

神戸市兵庫区
新在家町

兵庫県立水産会館

電⑤8301(事務)
電⑤9563(宿泊)